研究会記録　1959年12月8日　於 人文分館

綜合討論（地図による討論の第1回）

Kaw　川喜田図は温度帯分布図がまづある。北に農業のできない不毛地帯、その下はヨーロッパを特色づける地帯、その下に地中海及び東洋を特色づける地帯、その下が熱帯、次が乾帯、真中が砂漠；両側に湿、中間に中間がある。最后に両図を勘案して気候と国家との間に重要な関係のありそうなものを書いた。

Ima　此の場合、zone of europian というかき方と不毛地帯という書き方とは principle が違うから統一してほしい。この図から人間の動きを考えると4島・樺太はロシヤ人のものになる方が自然かもしらん。乾湿による世界のタテ割りも考えられるが横割りの方が起こりやすいのと違うか。アメリカはアラスカを持っているからタテ割りだが。これらの分布図は非常に面白く川喜田の分布論もかたまってきたように思う。

Kaw　此の図ではっきり云えるのは不毛帯の性格で、つまり定住生活はこれより北へは行けないのだ。ケチな農業しかできない。

Ima　しかしそれはいま迄の話でこれから進歩していったらそうともいえない。

Iin　あの図は結局、気候と文化との関係を現わすことになるのか。そうなら地中海帯と東南アジア帯とは反対の帯だともいえる夏雨と冬雨だ。

Kaw　それで違うといえば違うが対応した帯だ。

Ima　その云い方をするなら、4ベットは zone of Europe になるナ。それでいいのか。

Kaw　中央の乾燥帯でわかれている。やはり緯度的なものだけではイカン。別のものだナ。

Ima　ecological に云ったら別のものだ。

Kaw　北の方は要するに農牧で畑作型になっている。下の方は暑くなってくるので oriental despotism の zone になる。左右でいえば地中海はかわいていて、豊と不毛のコントラストの強いところ。しかし支那日本になるとそんな強いコントラストにならない。

Ume　北からやはり不毛地帯といった表現で一貫した方がよい。それで mediterranean と Chino-Japanese との違いもはっきりでてくる

Kaw　tropic の方では Biotic の問題がでてくる。そこが北と違う。

Ima　まんなかの名前の書いてないところはどうなっているか。

Kaw　それはモスレムのでてくる地帯だ。

Ume　逆に北方が侵入する地域でもある。

Kaw　だから推移帯で名前はつけられない。

Ima　しかし推移帯といえば、どこにもそれはあるから一本できった方が良いと思う。例えば、モゴールでも西の方でとまっているから人工的であってもきったらいい。

Ume　ステップのひろがりと砂漠オアシスのひろがりとの境できった方がよい

Ima　だから シンキョウはオアシス型に入れたらいい。

Ume　天山南路もオアシス型に入れればよい。北路はステップ型だ。

Ima　ステップの限界だ。だからタクラマカンはオアシス型。やはり線がひける。だからモンゴールの分布が目印になる。

Kaw　砂漠・オアシス型の北は黄河か。

Ume　限界ナナ。

Kaw　温量指数でパッとわかれる。

Ima　黄河のあの辺（中原の部分）までオアシス型がきていて、北支は何型か。

Kaw　北支は夏、案外暑い。そこで農牧にならずに穀菽的になる。

Ima　僕は北支までオアシス型と思う。昔は温度が変化があったと考えれば Fossil で水牛がでることも認められているし、かつてはもっと暑くて、オアシス的であった証拠もある。

Kaw　現にかわいている。

Ima　僕としては北支を典型的なシノジャパニーズには入れたくない。

Kaw　ワイ河、秦嶺線で切れている。これから北が段々違う。

Ima　それでいったら満洲はどうなるか。乾燥という点では満洲はステップに入る。

Ume
Kaw } ステップである。

Ume　いまの満洲は大半がステップで歴史的な意味で満洲というのは東満だけだろう。

Kaw　そうではない。

Ima　満洲族がどこから正確に出てきたかはしらんが、農耕のでてくるのは中央部でこれはステップである。森林を開いたものでない。

Kaw　満洲で重要なのは奉天から一寸北のある線で、これより南は両河水系に入ってシナと交通上結びつき易い。それで北と違う。

Ima　Ecology の方から云ったらオアシスの上に成立している国と、forest の上に地盤を置いて成立している国と2つにわかれるのではないか。満洲はステップ、日本は forest、東南アジア、ヨーロッパもそうか。

Kaw　モンゴールが森林までは攻め込んでそこでとまったということと関係がある。

Ima　此の2つは南米でのインカとマヤとの違いにも対応する。

Iiz　ネパールでもうまくわかれる。

Iin　すると私の犂耕的と非犂耕的とはその次の division になる。

Ima　それで同じく第一地帯の forest 型でも日本とヨーロッパの違いがでてきて欲しい。梅棹のあれで云ったら上下にずれているだけだが。

Kaw　しかし、それが違いである。85°できれいにわかれる。

Iin　ケッペンなら両方とも Cf だ。

Ume　だから Cfa と Cfb との違い。

Ima　まだもう少し腑に落ちないのは、第一地域として典型的に出す場合、地中海はどっちかというと切るわけだ。ところが横割りにすると日本が同じになる。だから東と西とで第一がずれている。それでよいのか。

Ume　それでよい。そしてその違いが色々実際の違いを生んでいる。

Iin 高温多湿なら植生が旺盛で作物も繁茂するが雑草も繁茂する. 除草すれば生産が高く, 良質の労働力が必要である。一方は良質の労働力でなくても良いが大面積が必要だから どうしても家畜が入って来ざるを得ない。だから高温多湿の方は社会が家族的なヒエラルキッシュな, 一方はフラットな社会に発展せざるを得ない。地中海の方はどちらかといえば その中間だが, むしろ高温で乾燥している. 北支の場合は夏は高温で雨がふる。

Kaw 夏雨冬雨の問題はそこで入ると思う。北支は乾燥はしているが夏雨だから利用できる. 地中海は灌漑しているところは別だが利用できない。

Iin だから地中海と北支は乾燥しているという点では同じだ. 併し, 夏雨・冬雨の違いがある。

Ume その違いは大陸での配置の違いで地球の自転による風向きの問題でもある。

Uey いま基本的にサバンナと森林に2つにしたが歴史的にはまずサバンナ地帯が活躍する. ここでマルクスのゲルマン型が完全なforest型, マルクスの云っているアジア型は乾燥で地中海型はサバンナできっちりあてはまる。

Ima しかしサバンナを独立の一型として今はみたくない。サバンナは乾燥地帯或いは森林地域からの前哨線にすぎないとみたい。だから地中海はオアシスである. だからマルクスの云うアジアの意味なら地中海も一緒になってしまう。

Ume ガンジス・インダス ドン ドニエプル 地中海等のサバンナから文明がでたというのが僕の基本的考え方である。

Ima 無理に反対するようだが, 地中海をオアシスと云って悪ければ灌木原である. アフリカ東部にでるのは土地が高い。

Ume quasi-arid で呼んではいかんのか.

Ima そう呼んでもいいがサバンナという名は元々一地方の呼び名を一般に適用したので サバンナと云っても詳しくみたら相違がたくさんある. 地中海は満洲. 北支みたいな森林のあるものと違って トベラやウバメガシの生えているような灌木林に相当する. だから型としてわけたらオアシス型で詳しくいえばサバンナということにする。

Iiz しかし. ウィットフォーゲルから云ったら地中海はサバンナと呼んだ方が都合がよい。

Ume ドントニエプルもそういうところだ.

Iin 狩猟をやっている種族と採集種族があって. どっちが早く農耕定着するかといえば 採集の方でないか. 特に密林のはづれぐらいで成立ち易いと考えるのはどうか。

Ima またそこでオアシスの問題になる. 砂漠の中でも水があればヤシが生えるところが ステップの方は茫漠たる広がりを持っている. 人間が始めにコジンマリと暮らすときにそんな茫漠たるところでは住み心地が悪い。 オアシスではまとまっていて ほかは不毛で何にもない. 発展を考えなんだら居心地がよい。

Ume だいぶ depth の問題やな。

Iiz ウィットフォーゲルでは semi-arid のところで中くらいの灌漑をやってまず基礎ができて, それから arid で大灌漑が始まったといっている. 併し semi-arid というのが実ははっきりしていない。

Tan tribal 灌漑というのもその前に考えている。

Ima 家畜の起源でも僕は一元説はとらない. オアシスでも動物は水を飲みにくる. そこでドメスティケイションが起こり得る。

Tan オアシスは水の欠乏は起こらないのか。

Ume それがあまりない. それがステップでは豊凶が強い. オアシスは非常に定住的で安定している。

Uey オアシスで家畜をもってからステップの方へやむを得ず押し出されるのはないか。

Ima あるかもしれんがトランスヒューマンスは農耕定住ということから出たとみられている. だから遊牧とは質の違いがある。前者は拠点をもっている。アフガニスタンでも今は農耕と遊牧にわかれているがあれはもとはひとつのものから分かれよったんやと思う。

Kaw オアシスのサイズの問題も考えたい. 大きなオアシスなら農一本でおくれるが小さいオアシスではそこへ牧を入れて両刀使いになる可能性がある。

Iin 私は遊牧民と農耕民とは origin からして既に別々のものだと考えている。

Ima それは非常に大事なことを云うてはるのだが, 日本のような forest では遊牧は入らない. ところがオアシスでは両者が結びついて成り立つ可能性がある. ステップならそれが狩猟から牧畜に移っていってもよい。だから いまは分けないで狩猟採集から牧畜・農耕へ移ったといっておきたい。ゴリラでも植物ばかりたべるのでなくて. 昆虫を追ってたべるのだから これは狩猟と見る。

Iin するとどんな種属も狩猟をやり. 採集も同時にしていたと考えるのか。

Ima そうです。

Iin それならアクセントの置き方の違いと云いなおしてもいい。狩猟か採集かにウエイトがかかる場合。

Ima それなら forest の方はどうしても農へいく。狩猟に適したところでは nomadism に一転する可能性がある。オアシスでは両手に花で狩猟と家畜と両方もっていくということがあってもよい。そこで牛や豚が飼われてくる。

Iin 昔からスキをひかすのは牛にきまっていた. 馬は乗る方で, 馬にひかせるのはヨーロッパで11~12世紀くらいだ。

Ima 蒙古は牛が新しい。先に馬と羊がある。

Ume 日本で馬に乗ったという確かな記録があるのは4世紀後半. 5世紀初頭 馬耕が新しい。

Iin 明治ごろ。

Ume はじめは牛。

Kaw 馬にしろ. 牛にしろ効果的に使うという点は畑が短冊型になるというのがよい目印にナランか。非能率の時は小さくて。

Iin ヨーロッパには二圃式と三圃式とある。二圃式は大体地中海沿岸. それから北は三圃式になる. 三圃式の方がはるかに生産が高い. 地中海で何故二圃式になるかといえば春から秋へかけて殆んど雨がない. そこでは軽いスキになり, 土を反転しない. 地表を軽く掻くだけで土の水を逃がさないようにする. 三圃式の方は有輪式のスキで土を深く掘りさげる. 夏に2回する。川喜田の云う短冊型の畑は有輪スキの三圃制による, 二圃制では四角い畑. ローマの影響ではじめは何処でも二圃式で(8世紀)南ドイツもそうだった それが南ドイツから北へ三圃になり有輪スキも伴って普及する, 11~13世紀に北フランス ベルギーへ及びイギリスは更に半世紀おくれる。これに伴って短冊型になったもののようである。だから有畜かどうかとは関係がない。生産量が低くて三圃になれないものがいま二圃のままで残っている。二圃制であって休閑しないのは18世紀になってからだ。分布は地中海沿岸 スペインも19世紀まで二圃式. 帝政ロシアは北のステップは別として南の方は三圃式だったという人がある。

Ima 東北アジアは何故 Weak のまま残ったか.

Kaw 孤立していた scale が小さかった。

Ume　乾燥地帯に接しているのも工合が悪い。ショッチュウやられる。

Ima　もっと ecological な問題がないのか。生産形式などもとりあげられないのか。

Kaw　東北アジアの場合、ヨーロッパのようにならないのは、既にシナのような植物生産的なヤツが居た。ヨーロッパはいかにも有畜がしっくりいっている。アジアはハダハダや。

Ima　それだから分類の時、ヨーロッパと東北アジアとを始めから同じカテゴリーで分類するという行き方がある。そのあとで乾燥とか隔離とかを入れた方が筋が通るのでないか。だから梅棹は系統を問わーないといういき方で話をしてきたが、この場合はやはり系統を無視しない方が良いのでないか。系統的には別だが convergence をおこしたという方がわかり易い。

Ume　イルカとサメが似ているみたいなものだ。ワクの問題とその中にいる素材・実体の問題だ。

Iin　農耕段階に移行したとき、犂耕的と非犂耕的な社会があって非の方は flat な社会となりこの地図では左の方だ。

○　それはひとつの dynamics である。

Iin　出発点が始めから違っていた。労働力の質も違っていた。今迄は後進国・先進国という云い方しかなかったが最初から日本にはもひとつの違いがあったといいたい。素材の違いといえばそれもいえるだろう。

Ima　宗教の分布でも西はキリスト教で東は佛教だ。

Ume　教義をいろいろくらべると、いろいろ違う。それが素材の違いを示している。

Iin　それが農業労働の違いから出ていると考えられないか。

Ume　そうではないと思う。

Ima　原因のひとつかもしれんが、ひとつにしぼろうというのはむづかしいだろう。

Ume　力学を考えて欲しい。力学というのは素材を問わない。或る重さのものをどれ丈の力で打ったらどこまで飛ぶかというのが力学で、打ったときの音色の違いは素材に由来する。

Iin　しかし何が基本的かはいう必要がある。

Ume　何が基本的という発想には必ずしも賛成できない。今迄とは別の観点を用意されたという点は重視したいが、それはひとつの力学を作ったということではないか。

Ima　飯沼の観点は分類には非常に役立つ。

Ume　分類というのはゲシュタルトの問題でかなり直観的なものが入っている。

Ima　そこをなるべく logical にしようとして気候を持ち出したのだし、その点で飯沼の観点も一つ用意された。生態地理が人間をも含めて大体使える。

Iin　わたしの考えは日本のように土地生産力が高いと質の良い労働が必要で雑草とりなどもしなければならないが、ヨーロッパの方は雑草をとらない。収穫も日本は徳川時代には既に播種量の30倍位いはとれていたと思うがヨーロッパでは5倍であった。勢い広い面積を耕作することが必要で家畜を使うことも必要となったと考える。

Ima　生態をとりあげているのはそのためだ。日本とヨーロッパと両方に始めから家畜がいてヨーロッパの方しか利用しなかったのなら、飯沼説の通りだが日本には始めから家畜はなかったいです。また家畜も必要だから使用しはじめたと考えるよりもオアシスのところで家畜もはじめからあって、農耕が進むにつれて有畜農になっていくと考えたい。

Ume　飯沼説は日本に関して理論がつきすぎているように思う。それと東南アジアの農耕での水牛やコブ牛を使う農業の説明もつきにくいと思う。

Iwa　僕も歴史的には原因のようにみないで農業と家畜があったから結びついたと考えた。

Iin　日本と東南アジアとは東南アジアの方が粗放的という説はわかるがそれでもそれとヨーロッパとを比べたらやはりヨーロッパの方が粗放的でないか。例えばドイツと比べて。

Ume　トンキンデルタやジャワなどを見ればそういえるかもしれないが。

Iin　私のは結局のところ、除草が必要かどうかという点にしぼられる。労働集約的という意味は

Iiz　基本的には確かにそうですが実際にはインドでも雑草はとらない。

Ume　いまのところ飯沼説の指摘するものが日本の特殊性なのか、モンスーン地帯の特殊性なのか、あるいは米作の特殊性なのか、僕にははっきりしない。その点で飯沼説は日本とヨーロッパの先進地帯同志だけを比べて非常にうまく説明できて面白いが他地域を入れて大きく考えると少し具合が悪いと思う。

Kaw　僕はユーラシヤでは農を3つにわけたい。園芸的・農牧的・放牧的でヨーロッパと日本の違いは前二者の違いである。

Iin　それはわかる。学生時代には農業的と園芸的というのがあってよくわからなかった。ヨーロッパでは黒土地帯で中耕除草をせねばならない。それを云っていた。だからヨーロッパ人の目でみると日本は園芸的になる。

Kaw　飯沼説への私の反対はヨーロッパでは雑草をとらなくてもいいという見方であるが、これは反対で、実際は雑草がひどくてどこへ麦をまいたかわからないようになる。その点で和辻以来のヨーロッパに対する態度には反対です。

Ima　カラフトでも雑草は人の丈を越する。だからそんな処でなまやさしい農業は出来ないのです。

Iin　それは私の話と抵触しない。ヨーロッパでは除草しないといっただけです。

Kaw　現在では手で抜かないという丈でしょう。ウィットフォーゲルではスジマキしない。バラマキする。チベットでもそうだ。

Iin　ヨーロッパでスジマキ（條播）するのが18世紀から。農業革命は19世紀にイギリスからはじまる。これはハルが條播機を発明してから。そして根菜類がひろまってくる。

Uey　森サンは條播機は中国で後漢書にでてくる、といっていた。

Ima　primaly classification の話に戻す。梅棹理論に系統論を入れようということになったから大飛躍したわけや。オアシス・準オアシス、ステップにわける。それから北方型・ヨーロッパ型といくか。

Kaw　僕なら冷温帯型と暖温帯型という。

Ima　それでいこう。これでシナはどこに入るか、それが問題だ。日本でも昔は畿内で暖温帯だ。

Ume　大帝国でいうと、色々あるから起源でいうのは賛成。するとシナは地中海型。

Ima　インドもやはりオアシス亜型やな。

Ume　ロシアはステップ亜型、起源はキエフだと思う。（インカ・マヤ・東南アジアとなって熱帯型がいることになってきた。）

○　熱・暖・冷ともった方がよい。

Ima　ステップ型はいきづまり方で、オアシス型は下流の氾濫原をおさえるようになると大きくなる。

Iwa　オアシスだけの国があるだろうか。
Ima　それには地中海のようなのもあるから沿岸型と内陸型というのも考えたらどうか。これはあとで第一地域と第二地域の力学にでてくる。
Kaw　ウィットフォーゲルはどう云っているか。
Iiz　彼は重点をオアシスにおいている丈であとこまかいことは云っていない。
Ima　一番問題にしたいのはシナだ。シナを断絶のある歴史をくりかえしたものと見るか、一貫したものとみるか。一貫しているとみる。
Ume　インドとどう違うか。その意味では同じだ。
Ima　それならそれでもよろしいが、北の方のヤツからいつもやられていたというのでよいか。
Kaw　蓄積のきいたのは南シナだろう。
Ima　僕の云いたいことは日本でも細かくみたら南北朝のこともある。シナでもそれで国として一貫しているとみたい。
Ume　ステップは確かにいきづまりのものだ。歴史的にいえば遊牧形式の発展と農耕の発展とはパーのものだ。そこから先が問題で元を最後にして亡びたのだと思う。元さえ北支へ出ることであそこまでいけた。
Iiz　地中海型をオアシス型に分類することが、まだよくわからない。
Sim　だから地中海地方というのはネグってしまってもよい。あれはヨーロッパ文明に継承されたというのでギャーギャー云っているが、オリジナルなものとしては余り意味がないのでないか。
Ima　僕が云っているのは地中海の方にも果樹のあるのが特徴だ。中央アジアの方にはない。
Kaw　イヤ、中央アジアの方にもある。ナツメヤシもある。
Ima　沿海内陸を云うのがいやなら果樹型と穀物型ということはできないか。
Iiz　するとインドは穀物型になる。
Ima　そういうことが社会形態に響いてこないか。
Iwa　人間関係を重視すれば森林と草原などということが大きいと思う。
Iin　irrigationのやり方も大きい。オアシス型では大灌漑が必要で、従って官僚制の方が発展しやすい。森林では小規模で封建制になりやすい。
Sim　ローマは余り特異なものとは思わない。
Uey　国家形態としてもやはり独特のものがあると思う。
Ima　その議論はオアシスということばでのイメージがまちまちだから起こるとも考えられる。サバンナ型というのにしてもよい。ただ僕としてはoriginの議論の時、これはサバンナ、これはオアシスときれいにわけろといわれると自信がないのでオアシスで一括したい。
Uey　エジプトとメソポタミヤをオアシス、ギリシャ・北シナをサバンナoriginというのではダメか。或いはヒラケ型と森林型にするか。
Ume　ヒラケ型というのはよい。要するに乾燥ということや。
Iin　しかし寒くても乾燥したところもあるからそれだけではいくまい。
Ima　オアシスということは森林とかサバンナとかいうvegitationにあてはまることばではない。併し乍らそこには水もあり木も生え、穀物も作れるというものをとってきてオアシスといっているのだから、それはサバンナの中にもあるのだ。
Ume　オアシス型でいいのだと思う。ロシヤでもそうだし、ウランバートルのところからも森林から出てくる。シナでも同じだ。これでいいでしょう。強いて分けないでもいいでしょう。
Uey　するとオアシスをかこんでいるもので亜型を分ければよい。
Iin　ワタシもオアシスとステップを分けた方がいいと思うのは発生の起源でもモンゴル　ロシアはあとで出てくる。オアシスの方が古い。
Ume　僕の考えではロシアは古い。スキタイ以来のことを考えると一寸あとという程度。ドンドニエプルのところがサルナートになる。国家というもののとり方にもよるが、ロシアというものの建国に限定することはないか。ないと思う。
Ima　しかしそれは今迄の歴史家が取りあげずに居て、本当はとりあげなければならないものか。トインビーのように考えるのかはっきりしてくれ。
○　ならべよう。インダス・メソポタミヤは4000年。
Ume　いや、僕はドンドニエプルには古くから独自のものがあるということを云っているのだ。ただ文字がなかったから文献が少い。江上さんの本でも取りあげているのはこの辺。
○　そこはステップだ。
Ima　森林ステップだ。地中海は灌木ステップ。
Kaw　今迄は気候を主に考えてきたが、今西サンが沿海内陸をいいだしてからややこしくなった。ここらで気候以外の要素をとり入れよ。
Huz　しかし今の議論ではもうvegetationが入っている。
Ima　オアシスというのはもう気候的なものでない。水もあり木もあり動物もいていろんなものが揃っている訳だ。だからこれはこれとして、飯沼さんの意見を入れて温量でも分けたらいいだろう。
○　冷暖熱もひとつ寒、35°線を入れてみよう。
○　どうも4分説がいい。それとforestとオアシス。
○　これに巨大帝国の展開という問題がからんでくる。
○　はっきりしてきた。地図作った値打があった。

オアシス	森林	
		寒
		冷
		暖
		熱

Ima　編成論には対立と支配—従属との2つの型しかない。同盟は対立の一型だ。
Uey　複数の対立だ。

Ima　上山さん、この図をウィットフォーゲルにかみ合わせたらどうなるか。
Uey　ウィットフォーゲルはポイントがオアシスにある。僕等と違って公平でない。
Ume　理由はある。そこが一番古いから。
Uey　それと地中海を重視しすぎるから。
Ima　国家の2つの型をオアシス型とforest型の2つに分けるだけでよいか。帝国型と封建型になるとしてよいか。例外はないか。
Sem　ギリシャが一寸困る。
Ume　問題は官僚型であるかというのでなくて、なり得るということでないか。アケドニヤや初期前漢帝国。

Iiz　ウィットフォーゲルは quasi-oriental と云って逃げる。

Ima　地形の問題はないか。インカは山脈に沿って縦にのびている。

Iiz　トインビーも日本を考えるときに山国だいうことを考慮している。

Ume　それには反対や。どれでも始めからそんな強大な国ではじまるのではない。何か別のことでないか。

Kaw　地形のことは蓄積的にいける形か disturb されやすい形であったか、という効果でないか。

Ume　それなら僕と同じ。

Ima　梅棹の挫折型を説明してほしい。

Ume　挫折しやすい型があるという意味だ。

○ Vey　編成論とは何を意味するか。

Ume　力学の法則でなくて現実の展開の問題という意味である。

Ima　未来国につながる。挫折型というのがあるのか、併存されることではないのか。

Ume　勝ち型と負け型があるといってもよい。アンナン帝国などが負け型だ。

Ima　その点で編成のしかたがかわってきたとも云える。昔は負かして併呑したが今はアメリカ等勝った方が金貸したりするので国をとられないで回復してきている。

Tan　僕は挫折という言葉がおかしいと思う。乾燥地帯から乗り込んだのは flat な構造のまま森林へ入ってそれでポシャルと云う事でないか。

Ume　一寸違う。カンボジャ・マヤはどうか。

Huz　マヤは自然消滅という説がある。暦に凝り過ぎた、暦のひとまわりがすむと都を移さねばならない　何度も移している間に力が尽きたと云われている。又世界で蛇を柱にしたのは　つまり動物を柱にしたのは ~~つまり動物を木~~ マヤだけで　あとはみな立木が柱のモデルになっている。

~~Huz~~ Ima　区分図は大変きれいになったからこれに合わせた大動物の分布の問題がほしい。

群れをつくるヤツとつくらないヤツとかある　サルは forest、ブタも forest のモンや。牛はオアシス型や　はっきりとはステップと云いきれん。ウマははっきりステップ型、羊は forest では絶対ない。羊がややステップ型で山羊が山型。

Ume　現代の蒙古は牛に非常に依存しているがいまの問題は古代のハナシ。

Ima　ロバは暑いところから出てくる。

Kaw　オアシス型の時は暖と熱とは一緒にしたらいいと思う。forest は分けてよい。

Vey　牛はどこか。

Ima　オアシス・暖である。

Vey　羊の origin は

Ima　家畜になったのは暖だろう。山羊も暖、ブタは forest とワシはにらんどりますケド。

Vey　これは空間の問題だから今度は中味の問題がほしい。家畜や人種の分布、人口分布がほしい。

Ima　forest の方が地球上で古い。ステップなど禾本科がでてくるのは進化上新しい。これに合う動物がでてきて更に人間ができて追ってでてくる。

Ume　今の爬虫類の分布の北限は35°線まで　それも一種類　大きなのは熱帯だけ。

Vey　歴史の大体の歩みとして振動を考えたい。始め狩猟採集を forest でやっていて、今度 forest を出て新しいものを獲得してまた forest へ戻っていく。そういう振動を考えてみたい。

○　大哲学ヤナ。

Huz　人間が移動するのか。

Vey　そうではない。社会の編成がかわる。

Ima　いまはどっちか。

Vey　いまは乾。

Kaw　ソ連優越論や。（笑）

Ima　もういちど分類分布に戻ろう。

Kaw　山上サンの中味の問題、

Ima　それもあるが先に君の出した三本足の問題がいまのこの区分けではどうなるか。はめこんで欲しい。

Kaw　専制国家は統制を基にする。日本みたいのは慣習の論理で封建制になる。第三は個人の論理で勃興期の都市協会というもの。ところが現実には第三が完全に支配しているものはない。

Ima　オアシスが第一になって、forest が第二になってくる。第三の脚についてもう少し。

Kaw　第三を基調としているものは、国家というものからは出ないと思う。一種の国際的なもので動いてくる。教会や国際経済的フェデレイションとか。

Iin　第二の脚で封建になるというが日本のは　ヒエラルキッシュ　だが欧では flat である。日本は上ほど大きくて、下ほど大きく、また家族的体制をとる。という形の違いがあると思う。

Kaw　それはあるかもしらんが　今の私は違いより、似ている方をいまとりあげたい。

Ima　違いもしかし問題にせんならん。例えば欧には小さい国がまだあって、欧全体としては封建制は過ぎたと誰でも云うが小国は依然として自分の存在を主張している。それはやはり欧の伝統というべきものでないか。

Kaw　地域的な localism の精神があってこれが国家を動かす。

Ima　日本はそんな小さな国にわかれなかったのは面積が小さかったからだと云えるか。

Ume Kaw　そうだと思う。もっと地域が大だったら欧のようになったと思う。

Ima　イギリスも今になってアイルランドがわかれた。

Kaw　結局、typological に何れが重点になるかで、分けてよいと思う。日本のような慣習の論理の場合、地域が自由で活潑であるのが長所だが欠点は画一的にならないので国としてのモーションがおそい。その丁度裏がえりは統制の論理の方だ

Ima　飯沼さんの出した欧と日本の封建制の違いの問題も欧は地域が広いので小国にわかれたという点で家父長制も同様に発達したのだから必ずしも flat と云えへんのでないか。だから力学で説明した方がきれいと思う。

Vey　flat というのは何を指して云うのか。

Ume　日本の方が elaborate しているとは云えるだろう。

Ima　横のひろがりにエネルギーが入ったんだ。

Kaw　欧では牧畜要素があるから非稲耕的で、これがあると人間はよりindividualisticになる。日本は農一本だったからという考え方でいける。

Ima　川喜田のいい方なら日本は牧畜要素がなかったので、individualismが発達していないから交通が発達してくるとその面が表面化して官僚国家になりやすいということになるが、それでよいか。

Kaw　よい。

Ume　反対。

Kaw　もっとも封建制の場合もこれはface of faceの関係が基本のものであるから、individualismが完全になくなることはないだろう。

Ume　そこまで考えなくてもよいだろう。

Iin　川喜田説に関連があると思うのは日本が大家族から小家族に移るのは徳川に入ってからだが南ドイツあたりでも8世紀頃。

Ume　併し戸田サンの本では日本も早くから小家族制が展開していたという。大家族そのものはあとまで尾をひいているが。

Iin　日本は室町くらいが典型的な封建で農奴がいる。この農奴が欧と同じく小家族である。

Ume　しかしそれはわたしの知識と大分違う。柳田学派では早くから小家族だ。東北日本は大家族だが西南日本は小家族だ。

Kaw　adult formは小家族だと思う。

Iin　しかし欧の封建時代と比べると日本は擬制大家族がずっと続く。農奴も血縁共同体的大家族になっている。これが小家族にわかれて納税の基底にしようというのが太閤検地だった、といわれている。日本の擬制的大家族はずっと続いている。欧ではマルクスの「先行する諸形態」を見たらわかるが、8世紀くらい既に家父長権が非常に弱くなっている。家族の中における自立性が非常に強い。農奴も小家族になっている。だから家族的な形が長く日本では続く。これは欧では質の悪い労力でもやっていけるからだ。

Ima　それだったら欧州人はパストラルだからということはいらないか。

Iin　イヤ牧畜要素もあることと同時に考える。

Ima　それなら何故欧に日本と同じく大家族制が始めにでてくるのか、ということを先ず疑問にしたい。

Iin　人類の種族が自然発生的に出たとしてこれが小家族に分散する前に大家族を一度は通るのでないか。

Ume　しかしそれでは大から小への転換は技術の発展に結びつけておられるのが何故かよくわからない。

Iin　人類の種族が自然発生的に出て、それが大家族へ分解し、更に小家族に分解するという筋道はどこでも通ると一応考えておく。そして社会の条件の違いに応じて分解の仕方が違う。欧では8世紀に既に小家族になったというのである。

Ume　それでもまだ疑わしい。欧には柳田学派ほどの民俗学がない。だから日本の田舎並に欧の田舎の知識がないからそうみえるのでないか！という疑いを保留しておきたい。日本と欧とを同じ知識のレベル比べたら驚くほど似ているという可能性は依然としてある。なおまた日本の歴史家が資料を整理するときに飯沼説のような仮説に従って整理してみることがあると思う。

Iin　イヤ、資料によればそうなる。

Uey　梅棹の疑いは成り立ち得ると思う。日本は欧とくらべてひとけたおくれているという先入観があると思う。

Iin　ボクはそうは思わない。

Ima　パストラルと大家族主義とを結びつけるのなら、チベットやモーコも大家族は発達させてない。だから欧に大家族制があったということが事実かどうかを確かめる必要がある若しパストラルと結びつけるのなら。

Ume　そして日本の場合は大家族制があったというならその観念があったのだと思う。その観念はシナからの文化の輸入を考えることが必要だ。

Uey　そうだと思う。大化改新あたりでそれが入ったのでないか。

Iin　しかし日本にそれを入れる基盤がなければそれが入って残り得ることにはならない。

Ume　逆に中近東あたりの文化が先にきてたらそうならなんだかもしれん

Iin　しかしやはり日本の内部にそういうfactorがなければ日本になり立たないと思う。

Ima　しかし、なお、ドイツの大家族制と室町の大家族制と同じものであったかという点でも僕はまだ少し問題が残っていると思う。だから大家族制があっても恥でもないし、そこで川喜田説も生かしたい。結局集約的な耕作をしているものはどうしても大家族的なヒエラルキイに頼りやすいのかもわからん。

Ume　それも僕はワカラン。それならロシアのザドルガというものがどうして出てくるのか。これは巨大家族だ。これは今世紀まである。スラブの分布にずっとある、ユーゴーまで。インドのjoint familyもある。

Ima　もひとつ大家族は或る段階で必ずでてくるというお説もあったが、それはそれとして大家族制の存在意義はあるひとつのまとまりとして自己防衛とかその他をするまとまりとしてあると思う。だからそれ以上のinstitutionがでてくれば必要がなくなる。欧ではその条件が早くでてきたのだというのなら理解しやすい。

Iin　欧と日本を比べると封建時代の典型でくらべたい。すると欧では封建の始まる9世紀の始めが既に単婚小家族である。

Kaw　それが疑問だ。

Ume　わからん。

Kaw　晩[illegible]にでもまだ大家族制の雰囲気のうかがわれるのがある。

Iin　農奴の階級で比べるのだ。

Kaw　それだったら民衆のlevelでは欧も日本も早くから小さくなっていた、ということであったのでないか。

Uey　農奴というハンチュウも疑問がある。

Iin　要するに古代社会と欧・日本とを比べればあきらかな違いがあり欧日本はよく似ているがsubdivisionとして欧と日本とをくらべればまた違いがあるというのである。

Ume
Kaw　} それは賛成。

Ima　その具体的な違いを農業技術の面からも考えんならんし社会の保障のことからで何故に大家族を必要としたかを考えて欲しい。例えば大家族はなくなっても親戚というものは今でも社会保障として非常に重要な役割りをしている。少くとも明治中葉までほんとの小家族で暮せるのは日本では非常に新しい。だから戸田サンの小家族がどんなくらしをしていたかをむしろ問題にせねばならない。

Ume　柳田では上層は大だが民家はどんどん分家して小さくなっている。

Iin　ただ柿田サンのでは何世紀かという問題がない。日本の歴史研究では室町から小家族ができてることは知られている。fiction としての大家族はずっとある。いまでもある。

Ume　その fiction を問題としている。キリスト教と儒教の fiction の違いであろう。社会体制の問題ではないだろう。

Iin　何故欧でインディヴィジュアリスティックな fiction ができ、日本で何故大家族的 fiction ができたか。それを満たす社会がそもそも成りたちが違っていたと考える。

Ume　そこはやはり別の問題だと思う。

~~Iin~~ Ima　飯沼サンの頭の中には早くから家畜がおりながら粗放である。日本はもっと早くから集約的、園芸的である。ということが含まれているとすれば、それだけ粗放なことをしていればエネルギーが余る。すると individualistic になるのか。

Ume　僕もそれは考える。余剰エネルギーから個人がでてくる。眠れる豚から牙が生える

Ima　米はありがたいけど、米を作ったばかりにエネルギーがみなそっちへ吸いとられた。欧ではそうでなかったというように話はいかないか。

Kaw　僕は飯沼説の日本は稼耕的というだけでは feudal になったことの説明としてまだ足りないと思う。日本は山国で米作と山林との combination があったということが大切だと思う。中国との違いだ。

Ima　山があるということでどうなるのか。

Kaw　欧では牧野がやっている役割を日本は山林がやった。

Iin　欧では19世紀まではほとんど肥料はウマヤゴエで日本では刈肥であった。キューヒをふやすことにあたるのが日本では山。

Ima　しかし家畜は勝手にコエをつくるが山では人間がエネルギを使って刈りにいかねばならない。

Vey　山からは水が豊富にでる。

Kaw　だから日本は山がはじめで山水の流れを利用して田を作るのが始めだ。シナは中南支でソコの方が feudal になる可能性がある。

Ima　第二地域では外からの力でいつもひっくりかえるというが、それはいつも支配者がひっくりかえる。シナの基盤になっているのは大家族的なもので上がいくらひっくりかえっても堪えるような形で今日まできたという。実際に大家族であったかどうかは知らないが、そういう社会のキメのこまかさは日本と同じようでないかと思う。

Vey　南支と北支とは違わないか。

Ume　ちがうかもしれん。

Kaw　山手の間にたんぼをつくり、というのはビルマの辺とかヒマラヤ沿いにある。これらはみな一種の feudal な匂いがあると思う。

Ima　もしちがうとすれば麦作の乾燥地農業と米作の南の違いということになる。

Ume　マントーを喰べるシナとお米のごはんをたべるシナと。

Ima　梅棹説では欧と日本の類似が大きくとりあげてあるが、同時に米をたべてる南支と日本の類似もとりあげて欲しい。

Iin　北支と日本も似ている。大家族制だし、北支は夏だけいえば高温多湿で亜稼耕的といえる。

Ima　そこで話はとぶが類似があるにもかかわらず、何故日本は先に近代化し、シナはうジャうジャしたか。結局日本が近代国家になったということで第一地域にしてもろている。何故シナが日本と似た條件を持っていな~~[illegible]~~には4億もの人口を持ち乍ら、財産を壁に塗り込んだりして個人の能力を川喜田の云うチャーターしなかったということになりはしないか。日本は小ヂンマリしていたので明治維新の時チャーターできた。だから国の海に囲まれていた安全さもあるが国の小ヂンマリさがあったと思う。

Ume　福山の話なんかはそれを示している。

Iin　こういう例がある。アメリカの経済学者ネフがイギリスとフランスの封建末期を比べると何故フランスで資本主義の発達がおくれたか。封建末期というのは絶対王政の時。両方同じように産業の末端まで官僚統制をしている。ところが実際はイギリスでは末端までは統制はいきわたっていなかった。そういうところで資本主義が発達した。

Ima　日本とは逆みたいだ。日本が明治でああなれたのは徳川で細いところまで制度が行っていた。

Ume　だが地方のゴツさもあった。

Ima　併しいまの話だと英では loose だったから産業革命になった。

Ume　日本はやはり loose だった。中央の法令は末端までいっていない。末端までは中央の通りにいっていない。

Tan　しかし日本の国という意識ははっきりあったのでないか。

Ume　それは身体が小さいから。

Kaw　日本は親分子分でつながってるということでも持っていた。

Ima　百姓が土地にしばりつけられていたのに伊勢のぬけ詣りは年間に百万人も動いたということを見ると日本というものがみなにわかるところまでいっていたとも云える。

Ume　日本は中央の統制と地方の独自性がみごとにバランスを持っていた国のひとつだろう。

Vey　参勤交代はそのあらわれ。中央制と地方制、うまあわせ。飯沼サンの話の家族労働力の形態は日本は世界でズバ抜けて大きい。殊に農林水産がべらぼーに大きい。就業人口の61.2%が家族労働力デス。ところが英国は1.5%、アメリカ13.1%、西ドイツが51.4% これは日本と似ている。

Ume　いろいろと特殊事情がある、ということだナ。

Iin　やはり良質の労働力が日本では要求されるということだろう。

Ima　人間が多すぎてナンボでも使える。これが労働力を少くしようというのと逆の方向だが。

Vey　だからこんどは何故人口がふえたのかが問題。

Ima　それは別の問題だ。

Iin　ラインランド・オランダのあたりは欧でも一番古くから農業の発達したところだ。海洋気象の中で非稼耕的な中では比較的稼耕的である。

Vey　家畜の方は。

Iin　フランドルでは8頭引きなんていう使い方をする。クローバーでも除草したりしている。

Vey　日本で個人業主が800万。それの就業人口が94万の35の4000万が家族労働力である。こんな国は欧にはない。イタリーがやや多いがイギリス等は全く少い。50%なんていうことはおこっていない。

Ume　イギリスって何故そんなんだろう。

Sim　植民地だな

Kaw　それもあるが、素質もあるだろう。

Iin　先に産業革命がおこったという特殊事情もある。

Ima　日本も満州へどんどん人をはき出していたらそうなっていたかもわからんが、そうはなっていない。そこで何故人口がふえたか。ひとつは倫理的なものがある。いまの日本でも子孫がなくても平気だという人がふえているだろうが、ハラを割ってどうだ。やっぱり子は欲しいナーと云いますワー。　マ、日本人だけではないかもしらんが、一人でも自分の子孫がふえてくれた方がエエという考え方は明治時代には明らかにもうあった。

Vey　こういうことがある。アメリカでパニックの時、一世帯平均の子供は2〜3人、戦後5〜6人になった。バスコンをやらないようになった。だからどれだけ人が養えるかという問題だと思う。

Ume　まびきがそんなに根本的な人口一定の原因であったか、あたりまえのことだったか。

Iin　そのように本には書いてある。

Ume　僕もそう思っていたが、此の間、郷土の歴史を見てたらこんな事が書いてあった。着任してきた代官かなんかの手記で、ここではマビキがあることを始めて発見した。こういう非人間的なことをするのは教育のないせいだというので郷学をひらけという事で始った。そんな事がレイレイしく残っているところを見るとマビキが一般にあったとは思えないナーという気がしてきた。中国筋だったと思う。

Iin　山へやったとか川へやったとかいう云い方もある。山へやるのはアビキで川へやるのは——

Ume　そういうことは知っているが、とにかく一般にあったのかどうか。

Ima　どっちにしても子孫の数は多いにこしたことはないと思い、自らも養えないのでマビいたというのと、テレビやなにか買わんならん、だから2人くらいにしておきましょう、というのとはだいぶ違うだろう。

（此の議論のあとで地図の吟味に移り、乾と湿とを2色に分け、それに温量指数線を入れることになった。）

- 編成論に入るのに何かもひとつ足りないという感想あり。
- 系統論については系統をなす主体は何かという疑問あり。

Ume　系統論とはどういうものか。

Ima　系統論とは日本が何故ヨソに取られずに済んだかということなどがひとつ。日本の系統の中には analogous に parallel evolution が欧との間にあると、米作という点では南支と或る程度の homology がある。だから analogy と homology とは両方もってくるのが系統論だ。

Ume　なるほど、一種の歴史だな。

Ima　比較歴史論。

Huz　すると主体は民族か。

Ima　それを国という訳だ。詳は重層になってから国家というものができていったのだ。これが一大[illegible]みたいになっておくと編成論でもう少し詳しくやってもらう。だから植民地になるとこが出来るとかアメリカをどうしようとか云っていたのは系統にゆずって了えばよろしい。

Ima　系統論では これは analogy である、これは homology であるとかいうキチンとした分析がないと今迄の社会学と選ぶところがなくなって了う。homology とは同じ起源から出てきたヤツ。analogy とは違うものからでていながら機能的に同じ形をとっているヤツ。homology は素質論で origin の問題、adyptation で問題になるのはどちらかと云えば analogy が多くなる。

Ume　佛教がアチコチに色々あるというのは homology で、佛教がキリスト教と対比されるようになるのは analogy である。

Ima　だからこれから進む機械文明などが一体 homology なのか analogy なのかという問題もある。今迄帝国とか封建とか並べてきたが homology, analogy の分析なしに並べてきた。併し今迄は diversence をおこしてきた社会がこれからはひとつになっていくとすれば、これは homology か analogy か。

Ume　かなり homology で説明できるものがあるかもしれん。

Ima　例えばスピードなんていうことは東洋人だからスピードが嫌いなんていうことはない。

Ume　機械文明ということは大体そんなことが多い。

Ima　僕に云わせたら素質でわりきって analogy だけでいったら世界はひとつにならへんと思う。それが人類本来の homology なものがあって人類をひとつにしているのでないか。

Ume　個別的普遍性といったもの。川喜田の好きな矛盾原理だ。

Vey　そうなると系統論と編成論は同じものでないか。何故分けるのか。

Ima　系統でより理論をとりあげ、編成でより具体的なものを扱ってもらったらいい。

Vey　それがわからない。

Ima　志郎クンあたりに列強の成立のところをだしてもらうことにしよう。

Vey　それでもケジメがわからん。

Ima　例えば第2次大戦のあとで植民地が独立するが、これは系統論では別にでてこない。或いは系統論は梅棹の旧大陸の議論だけで出切ってもよい。編成論のところではまた対象は国家だが、この国家というヤツはユーキューの昔から adapt し select されてきた人間の体とは違ってまだ充分 select されていないから homeostatic と云ってもまだ不充分なところがあるのだ。だから生態学的国家学なんていうものでも出てくれば非常にありがたい。

Ima　いまの状勢から云ったら日本が仮りに大東亜戦争に勝っても結局バテてしまいよるネン。

Ume　結局解体するだろう。

Iin　経済学の方では人間の欲望は無限だという前提で生産力の発展という方向へドンドン進むと考える。そしてその際5つの段階を通るとしている。1. 奴隷制 2. 封建制　3. 資本主義制　4. 社会主義制　そしてそれぞれの制の切り替えは奴隷制なら奴隷制が一番発展したところは反って次へいかず、それの不充分なところが 2. へ発展する。2. の不充分だったイギリスが 3 へいく。

Kaw　role 学説ヤナ。次の主役が舞台へ登場して何を達成せりやという問題か。

Ima　これも編成論で取りあげて欲しい。

以上